



松ヶ江南小だより

松ヶ江南小学校校長室

臨時号(学力特集号)
平成27年11月12日
北九州市立松ヶ江南小学校
文責 校長 瀬藤 早苗

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

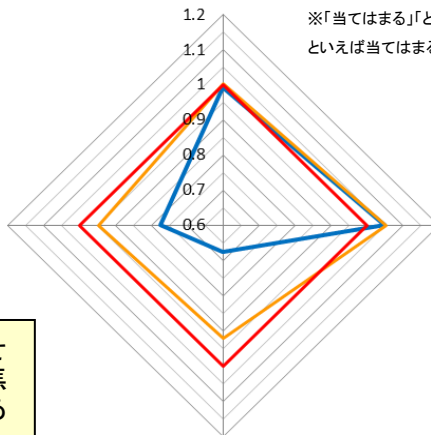
① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	学力の状況
国語A	・全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。 ・言語についての知識・理解・技能にも課題がある。国語の基礎・基本の習得も必要である。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字の読み比べ書く問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている。
国語B	・全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。読むことも書くことも力を付けていく必要がある。 ・目的に応じ、中心となる語や文を捉えることはできていたが内容を整理しながら書く問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている。
算数A	・全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。 ・無解答率が全国平均を上回る問題は減少したことは良かったが基礎・基本の習熟にまだ課題がある。 ・分数の割り算の正答率は高かったが、小数の加法の結果を減法を用いて確かめる問題や時刻を求める問題の正答率が全国より低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている。
算数B	・全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。 ・無解答率が全国平均を上回る問題が減少したことは良かった。粘り強く取り組むことができるようになった。 ・応用力も付けていく必要がある。 ・辺の長さや角の大きさを求める問題の正答率は高かったが、条件が変更された場面の面積を求める問題の正答率が全国より低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている。
理科	・全国平均正答率を下回り、昨年度よりもその得点差が開いた。 ・知識に関する問題や活用に関する問題ともに正答率が低かった。基礎知識からしっかり身に付けていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか。

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」



授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていただきたいと思いますか。

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」

授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」

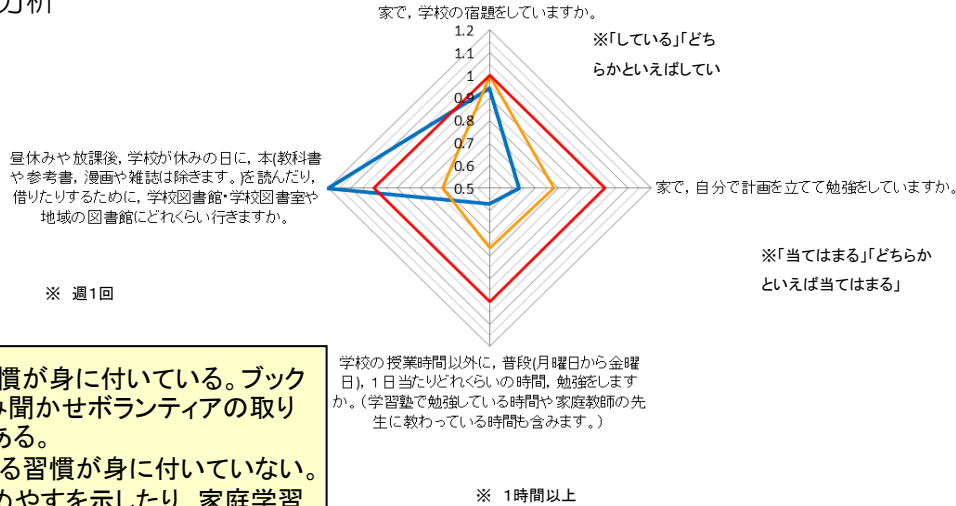
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」

- ・授業がめあてとまとめをはっきりさせて行われている。そのため、授業が焦点化されているのが、大きな成果である。
- ・児童は、発表する機会が与えられていないと感じている。児童が、「発表した」と感じる機会を増やしていく必要がある。
- ・基礎・基本を身に付けることと、それを活用する活動を行うことをバランスよく仕組んでいく必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析



・読書をする習慣が身に付いている。ブックヘルパーと読み聞かせボランティアの取り組みの成果である。
 ・家庭学習をする習慣が身に付いていない。全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・学校便りや理事会で生活習慣について触れることにより、家庭の理解を得、規則正しく朝起きることができている。
 ・ゲームをする時間は短い、テレビ等の接触時間が多い。特に3時間以上の長時間の利用の割合が多い。今後、毎月行っているノーテレビ・ノーゲーム・読書の日の取組に対する保護者啓発をさらにしていく必要がある。
 ・挑戦することに課題がある。学校行事や日常の学習、自主学習などでワンランク上にチャレンジすることを意図的に仕組み、さらにそこでの成功体験を積み重ねていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習<松南タイム>で全校一斉に実施(今年度は特に音読に力を入れる)
 - 月曜日:学級 火曜日:音読 水曜日:ボランティアによる読み聞かせ(読書) 木曜日:計算 金曜日:漢字や言葉
 - ・特設時間(給食準備中の算数マスタータイム)の取組
 - 内容計画表を作成し、一年間学年を分担し継続して実施(学力向上推進委員会・各学年)
 - ・長期休業中における宿題で、国語・算数の過去問題、アシストシート、単元別プリント等の準備
 - ・小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備
 - ・ひまわり学習塾の実施
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付け「力だめし」をする。
 - ・アシストシートを宿題とし、朝自習で答え合わせ、解説、やり直しを行う。
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 「言葉の学習」の取組
 - ・ノート指導を通して、書くことへの抵抗感をなくす。
 - ・ノートを書く際、自分の考えをひとまとまりの文章(主張+理由)で書く機会を増やす。
 - ・自分の考えを広げ、深めるため、授業中での話し合い活動の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・長期休業中や自主学習での「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・中・高学年での自主学習ノートへの挑戦
 - ・家庭学習時間(10分×学年)の設定と学校便りや理事会での広報
 - ・校内自学ノートコンテストを実施。市の家庭学習マイスター賞への応募
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り・学校HP